

虹のかけ橋

【特集】

鳥取生協病院のリハ職 第1回「言語聴覚士」



20
SPRING 2015

【特集】 鳥取生協病院のリハ職 第1回「言語聴覚士」



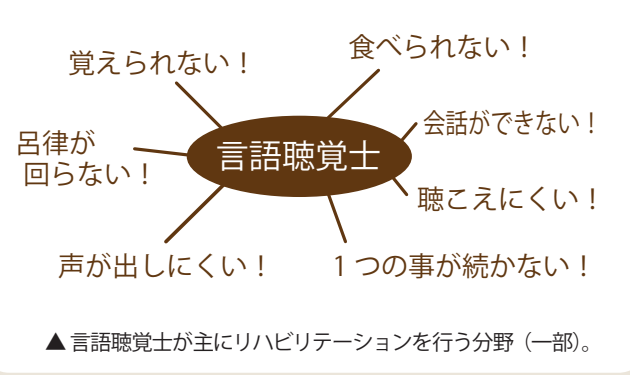
2014年10月より回復期リハビリテーション病棟の病床数が計90床となり、より一層の活躍が期待されている理学療法士、作業療法士、言語聴覚士からなる当院リハビリテーション室の職員たち。今回は「コミュニケーション」と「摂食・嚥下」のスペシャリストである当院の言語聴覚士を紹介します。

言語聴覚士とは 患者さんの回復のために

普段私たちは特に何も考えることなく誰かと話をしたり、食事をしたり、バリバリ仕事をこなしたりしています。しかし、病気にかかってしまったり、事故に遭ってしまったりと、何らかの理由で何気なくやっているそれらのことが非常に困難になってしまうことがあります。言語聴覚士はそのような方が日常生活に復帰できるよう、相談・訓練・指導を行う国家資格者です。当院では医師、看護師をはじめ様々な職種のスタッフと連携しながら患者さんの回復のために日々、業務に従事しています。

手厚いリハビリを 鳥取県東部最大級の人数で

当院の言語聴覚士は現在11名。この11名という言語聴覚士の人数は鳥取県東部では最大です。どんなに優秀な言語聴覚士がいても人数が少なくて様々な症状を抱える患者さんに手厚くリハビリを行うことができません。少数精鋭という言葉が成り立たないのもある意味事実です。しかしただ人数だけ多くても「烏合の衆」です。当院の言語聴覚士は勉強会や学会、研修会へ積極的に参加することで研鑽を積んでいます。また、パーキンソン病のリハビリテーション手技であるLSVT® LOUD、認知症リハビリテーション手技である学習療法を実施することができる学習療法士の資格を持つ言語聴覚士もいます。



地域ニーズにも対応 訪問リハビリに言語聴覚士を

病院を退院した患者さんにも引き続きリハビリが必要な患者さんは数多くいます。しかしながら、現在鳥取県東部で訪問リハビリに従事している言語聴覚士は数えるほどしかいません。鳥取生協病院では、2名の言語聴覚士が関連事業所である訪問看護ステーションすずらんに出向し院内リハビリと並行して訪問リハビリを実施しています。「ニーズがあるのにリハビリを提供できない!」このような状態が早期に解決できるように当院を含めた法人全体で努力しています。実際に訪問リハビリに伺っている患者さんや家族さんからは「本当に助かる」、「退院してから機能が落ちることなく更に食べられるようになった」など嬉しい言葉を頂いています。

ドクターコラム

Doctor's column

年末年始はインフルエンザの大流行でしたが、皆さんの周囲ではいかがだったでしょうか？我が家には4歳の息子と7歳の娘がありますが、今年の秋、保育園から帰ってきた息子が興奮気味に言いました。

「お母さん、あのね、お病気がかからないようにする、すんばらしい注射（インフルエンザワクチンのこと）があってね、みんな〇〇医院でしてもらったで！だけえみんなお病気がかからないようになったで！すごいがあ〜？」ものは言い様ですね。「ほくも絶対してもらいたい！」と例年になくノリノリな息子でしたが、結局忙しくて今年は連れていけず。なので流行期に入ると気が気ではありません。どんなに爆発的に流行し始めても、ワクチンを打てない我が家の息子と夫とはとにかく予防するしかない状況です。長女は、せっせと独自の風邪予防（ちょっとでも風邪気ならすぐに子供用の栄養ドリンクと肝油ドロップの摂取）にいそしんだ結果風邪も引かずに済みまし、息子も鼻水はたらしつつも熱は出さず。今年は調子が良いぞと安心していました。

そんな1月のある日、学校帰りの娘が「今日は、みんなインフルエンザでお休みで8人しかいなかった！」と言いました。案の定翌日から学級閉鎖。これが共働き核家族には応えます。いっそのこと雇ってくれれば病児保育に頼めるのですが、元気な娘はそうはいかず、やむなく初日は医局で、二日目は夫の職場で過ごすことになりました。なんとか3日目に無事登校再開できた時は大いに安堵しました。ここで油断したのか、なんと私が熱を出して寝込んでしまいました。息子に「うがいと手洗いで、お菓子ばかり食べをせんかったら、かぜういるすに負けないの！お母さんは、お菓子の食べ過ぎなんだけえな！」と怒られ、それを窘める娘曰く。「ちがう、ちがう。お母さんはお菓子の食べ過ぎじゃなくて、お酒の飲み過ぎでビタミンが足りんだだけえ。なあ、お母さん？」あまりの失礼な言葉に、母は布団の中で涙しました。

まだまだ インフルエンザの方は散見されます。ワクチンを過信せず、油断せずに予防も続けなければと痛感しております。



平田 雅子 Masako Hirata
内科診療部長

鳥取生協病院

鳥取生協病院の理念

- ①患者の人権を尊重し、無差別・平等の医療をすすめます
- ②安全・安心・信頼の医療を患者さん、地域の人々と協同してすすめます
- ③安心して住み続けられるまちづくりをすすめます
- ④保健・医療・福祉のネットワークを広げます

〒680-0833 鳥取県鳥取市末広温泉町 458
◆TEL(0857)24-7251 FAX(0857)26-2945
◆ホームページ <http://www.med-seikyo.or.jp/>
◆Eメール tseikyo@med-seikyo.or.jp



◆発行・編集・デザイン 鳥取生協病院広報委員会
◆地域連携室 直通 (0857) 25-8208

緩和ケア

Palliative care

緩和ケア病棟の紹介

当院緩和ケア病棟は2008年3月に新病院移転と同時に開設され、今年7年目を迎えます。病棟は9階にあり、現在病床数は20で全病室個室です。専任医2名、病棟看護師24名のスタッフの他、精神科医師、臨床心理士、薬剤師、理学・作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、メディカルソーシャルワーカー、ボランティアスタッフ等が治療・ケアに参加し、チーム医療を行っております。

昨年（2014年）1年間の入院患者数は181名、退院患者数は184名、平均在院日数は38.1日です。当病棟への入院目的は、主に①症状緩和、②最期の看取り（ホスピス）、③レスパイト（介護休養）の3つです。

症状緩和については、主にがん患者さんの心身の苦痛を和らげる治療、ケアを行っています。治療、ケアは、患者さんの命の長さを変えることなく、苦痛の緩和に重点が置かれます。主に薬剤を使用し、疼痛、呼吸困難、全身倦怠感、不安、うつ状態など、心身のさまざまな苦痛症状に対して治療、ケアを行います。手術、蘇生術や人工呼吸器装着などの濃厚な治療は行わず、がんの治療も行っていません。がんによる苦痛症状がある患者さんであれば、いかなる病期、病状であっても入院対象となります。

症状緩和が奏功し、退院が可能となった場合は、在宅医療も進めています。診療所、訪問看護ステーション等との連携を行い、自宅で穏やかな時間を過ごしていただけるよう援助をおこなっています。病状が進行している患者さん場合、症状緩和治療・ケアを進めても、最後を迎えられる方もおられます。その場合、当病棟で最期の看取りをします。患者さんが人生の最後の瞬間まで尊厳を保ち、苦痛を最大限に小さくするように治療・ケアを行います。いわゆる「ホスピスケア」です。

また当病棟の機能として、自宅で患者さんの介護を行っていただけるご家族に休養をして頂く目的で、短期間、患者さんに入院して頂くこともあります。「レスパイトケア」と言われるものです。

「緩和ケア」は、がんと診断されたときから行う、身体的・精神的な苦痛をやわらげるためのケアです。患者さんとご家族のQOLが改善するよう、病期、病状に関わらず当病棟でサポートさせていただきます。

今後とも、鳥取生協病院、緩和ケア病棟をよろしく願い申し上げます。



大呂 昭太郎 Shotaro Oro
緩和ケア科診療部長

無料低額診療

Free or Low Cost Medical Service

無料低額診療事業は、社会福祉法第2条第3項にて経済的に困難なご事情を抱える患者さんを対象に、当院での保険診療にかかる窓口負担の一部または全額を免除させていただく事業です。詳しくは医療相談室までお問い合わせください。

無料低額診療適応基準

最低生活基準額 110% > 世帯収入 = **全額免除**

最低生活基準額 130% > 世帯収入 = **半額免除**

低所得の事例

＜低所得世帯のため受診を控えていたら癌が進行＞

30代女性。頭痛・めまいなど体調不良がつづきパートを退職。夫の給与だけで4人の子供を養育しなければならず、収入が減ったために受診を控えていましたが、無料低額診療事業の掲示をみられたことで医療相談室に来室。当制度を申請後、各種検査を受けたが、特に異常は認められませんでした。しかし以前から度々あった下血についてもこれを機会に検査したところ、直腸癌が見つかりました。症状が落ち着いたら仕事を探そうと考えていた矢先のことでした。現在は手術も受け、外来で化学療法を受けています。「医療費の心配なく治療が受けられ本当に助かりました」と感謝の言葉を頂いています。

働いてはいるものの、収入減少や住宅ローン返済など、医療費にまでお金がまわらない人が増えています。全国的な雇用環境の厳しさは鳥取でも例外ではありません。事例のように、お金が無いことを理由に受診を控えていたら病気が進行してしまったなど、所得と受診は密接に関わり合っています。

経済的に困っている方がおられましたら、病院総合受付か医療相談室にご相談ください。

